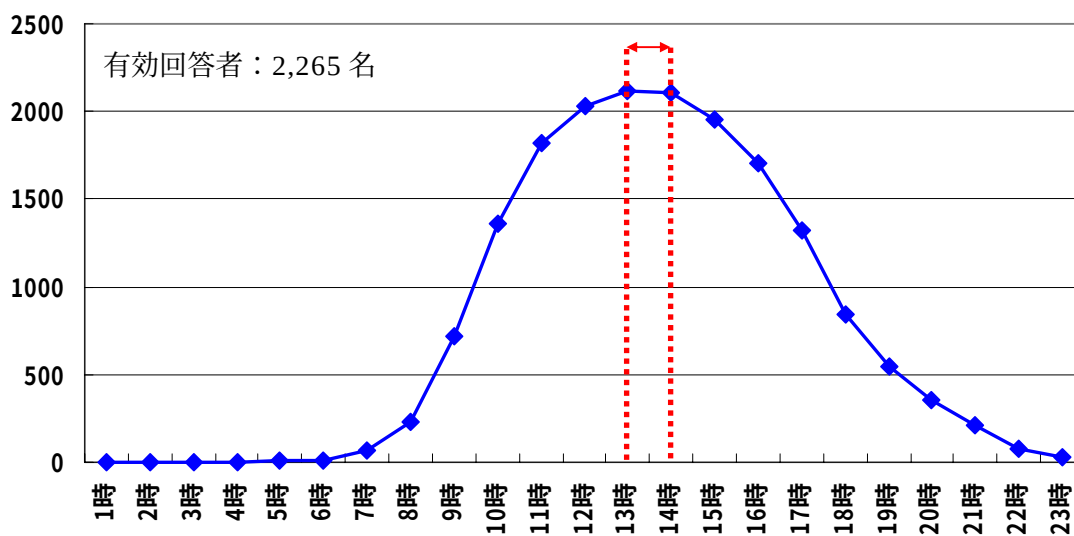


4 観光行動の分析

(1) 観光交通に関する分析

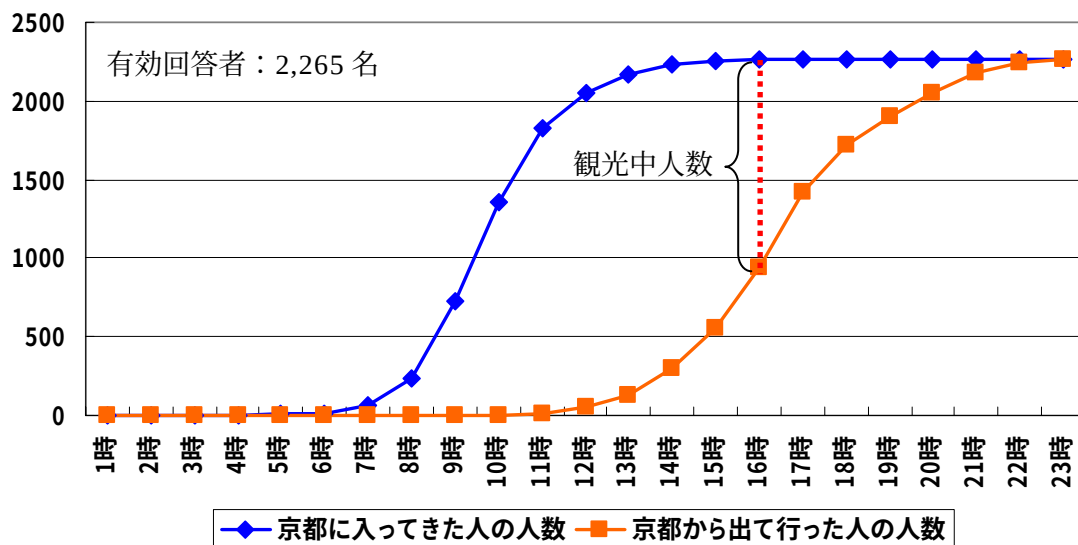
ア 観光客数

- 京都市内に観光客が最も集中する時間帯は 13～14 時である。
- 京都市への入り口別に観光客数の変化を見ると、京都市内の宿泊地から出発している人のピークが 12 時と最も早く、次に早いのは自動車で京都に来た観光客となっている。JR 京都駅、その他鉄道駅のピーク時刻は、どちらも 14 時となっており、自動車に比べると 2 時間遅い。
- 朝の混雑ピーク時間帯（観光客数が最も増加している時間帯）は、JR 京都駅では 9～10 時、その他鉄道及び自動車では 10～11 時である。
- 夕方の混雑ピーク時間帯（観光客数が最も減少する時間帯）は、JR 京都駅及びその他鉄道では 17～18 時、自動車では 16～17 時である。



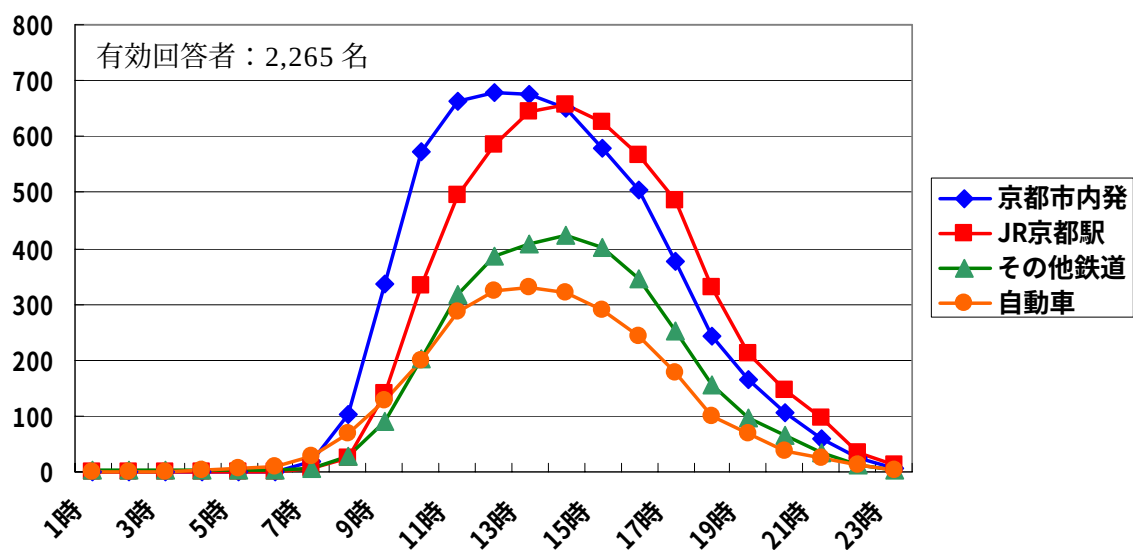
※有効回答者は、京都入り時間、京都出時間がともに有効である回答者

図 4-1 観光客数の時系列変化



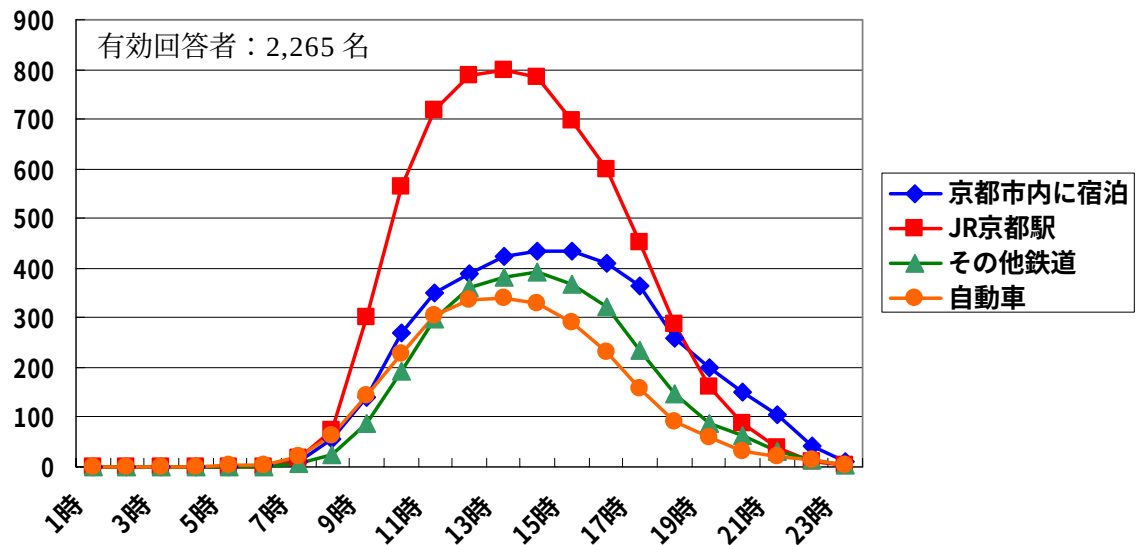
※有効回答者は、京都入り時間、京都出時間がともに有効である回答者

図 4-2 京都に入ってきた観光客、京都から出て行った観光客の時系列変化



※有効回答者は、京都入り時間、京都出時間がともに有効である回答者

図 4-3 観光客数の時系列変化(京都市への入り口別)

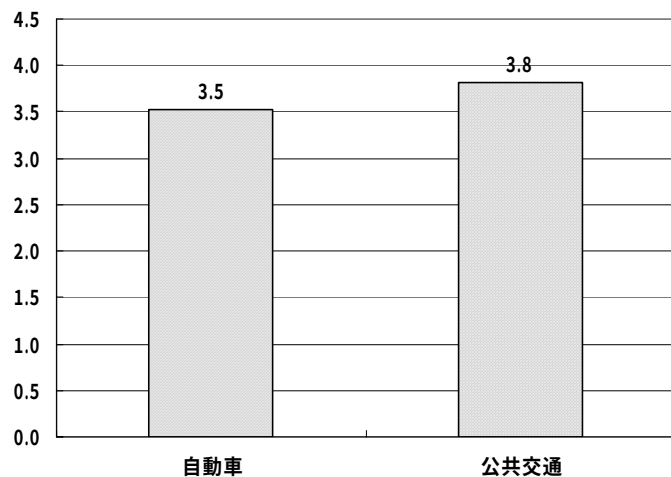


※有効回答者は、京都入り時間、京都出時間がともに有効である回答者

図 4-4 観光客数の時系列変化 (京都市からの出口別)

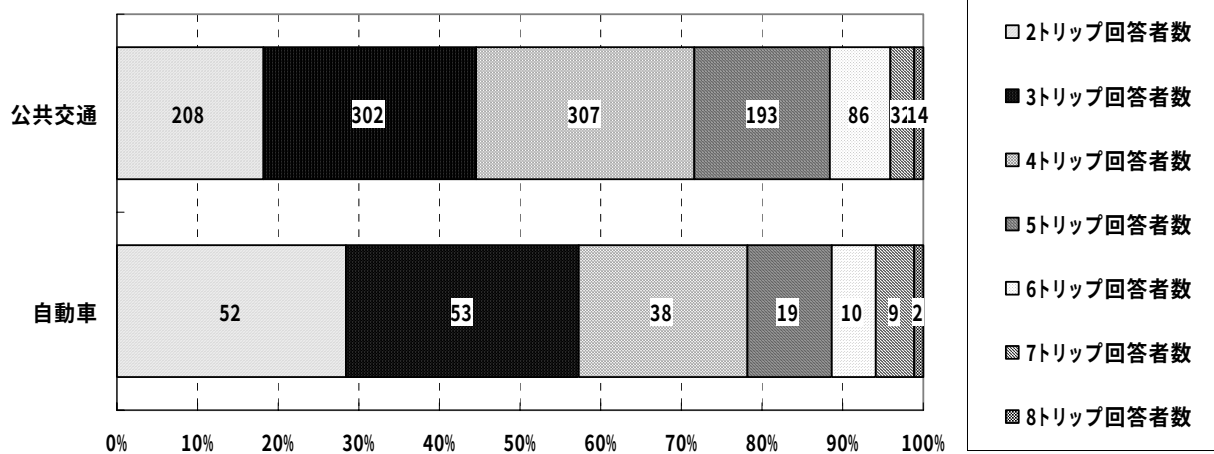
イ トリップ数

- 公共交通利用者は、自動車利用者よりトリップ数が多い。
- 自動車利用者は2トリップ、3トリップの回答者が多く、あわせると50%程度となるのに対して、公共交通利用者は、3トリップと4トリップの回答者が多い。



自動車利用者：185 名
公共交通利用者：1,145 名

図 4-5 平均トリップ数



自動車利用者：185 名 公共交通利用者：1,145 名

図 4-6 トリップ回数の構成

ウ 移動時間と滞在時間

- 観光時間※が長い観光客ほど、総移動時間よりも総滞在時間が長くなる傾向にある。
- 公共交通利用者は、自動車利用者より 30 分程度、滞在時間が長い。一方、移動時間は、大きな差はない。

※観光時間：一日の総移動時間と一日の総滞在時間の和

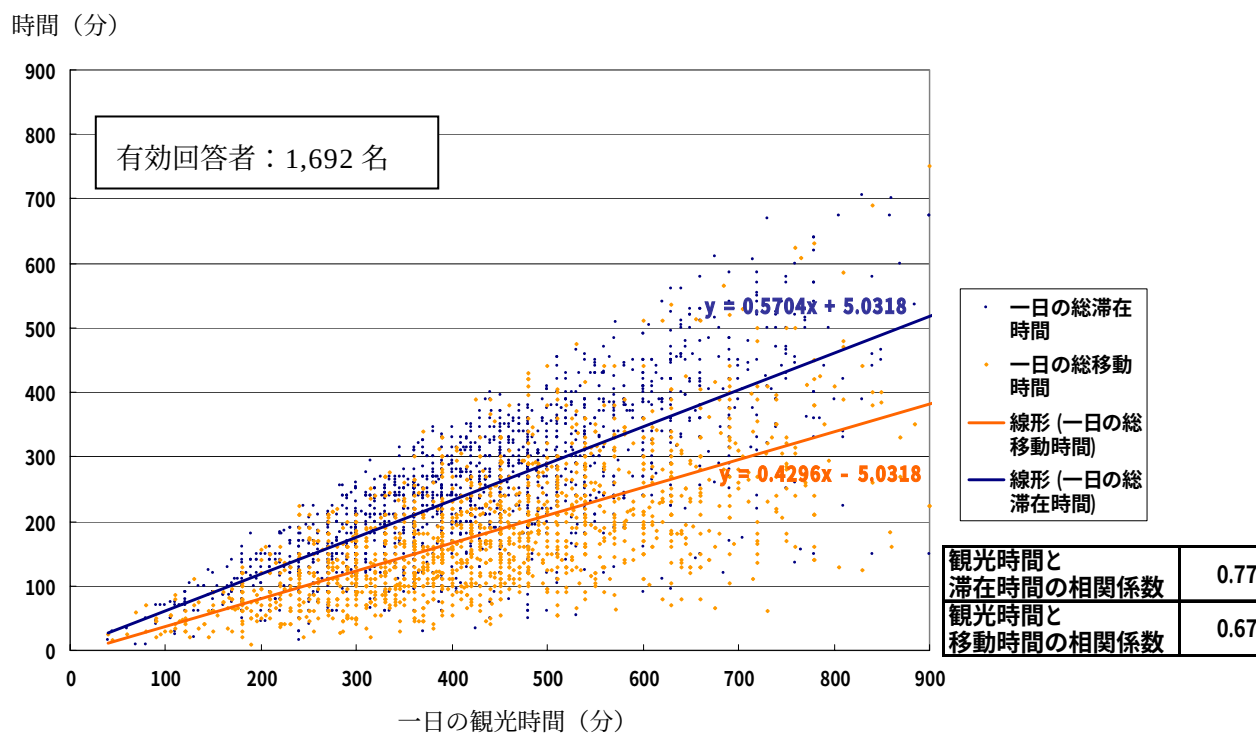


図 4-7 一日の総移動時間, 総滞在時間の分布状況

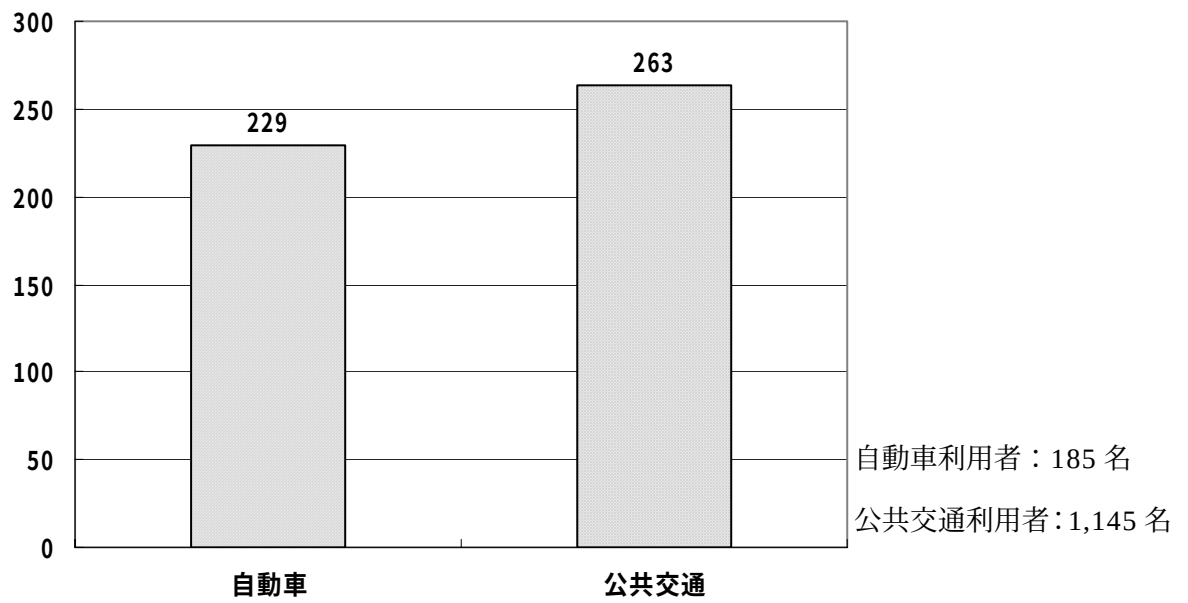


図 4-8 回答者一人あたりの平均滞在時間

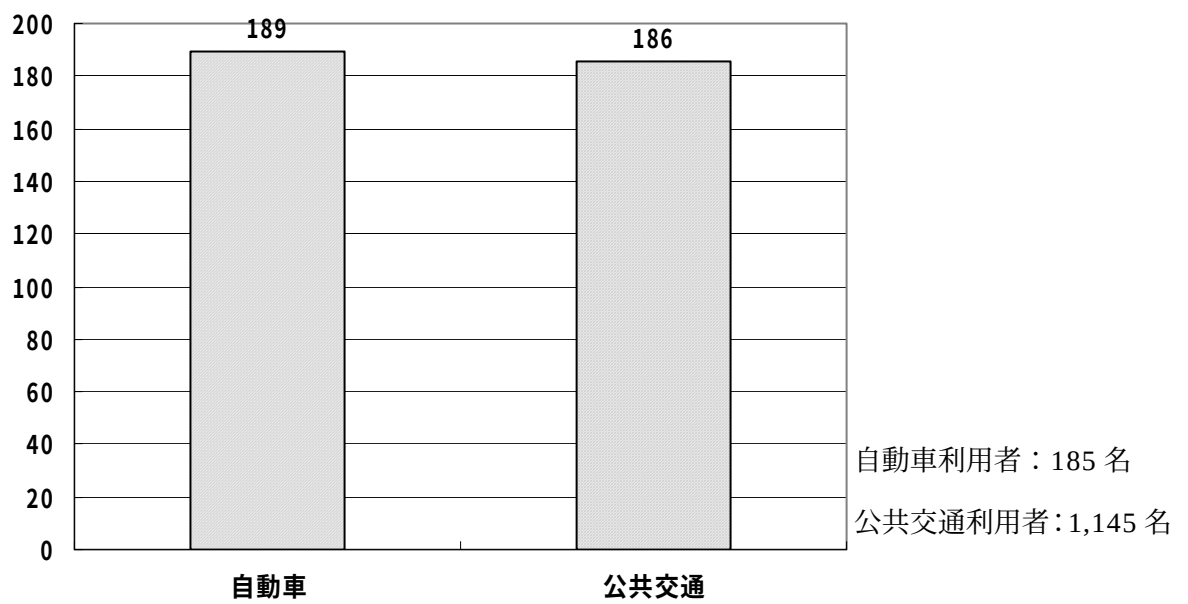


図 4-9 回答者一人あたりの平均移動時間

I 観光地間の移動

(7) 利用交通手段の経年変化

- 過年度調査時と比較すると、地下鉄東西線開通、烏丸線延伸に伴い、観光地間の移動で地下鉄利用割合が増加している。
- 京都市内を5つの地域（北部、東部、中部、西部、南部）に分割し、地域別の交通手段の利用状況を見ると、東部内の移動では「徒歩」の割合が高い。また、南北の移動で地下鉄の割合が高い。

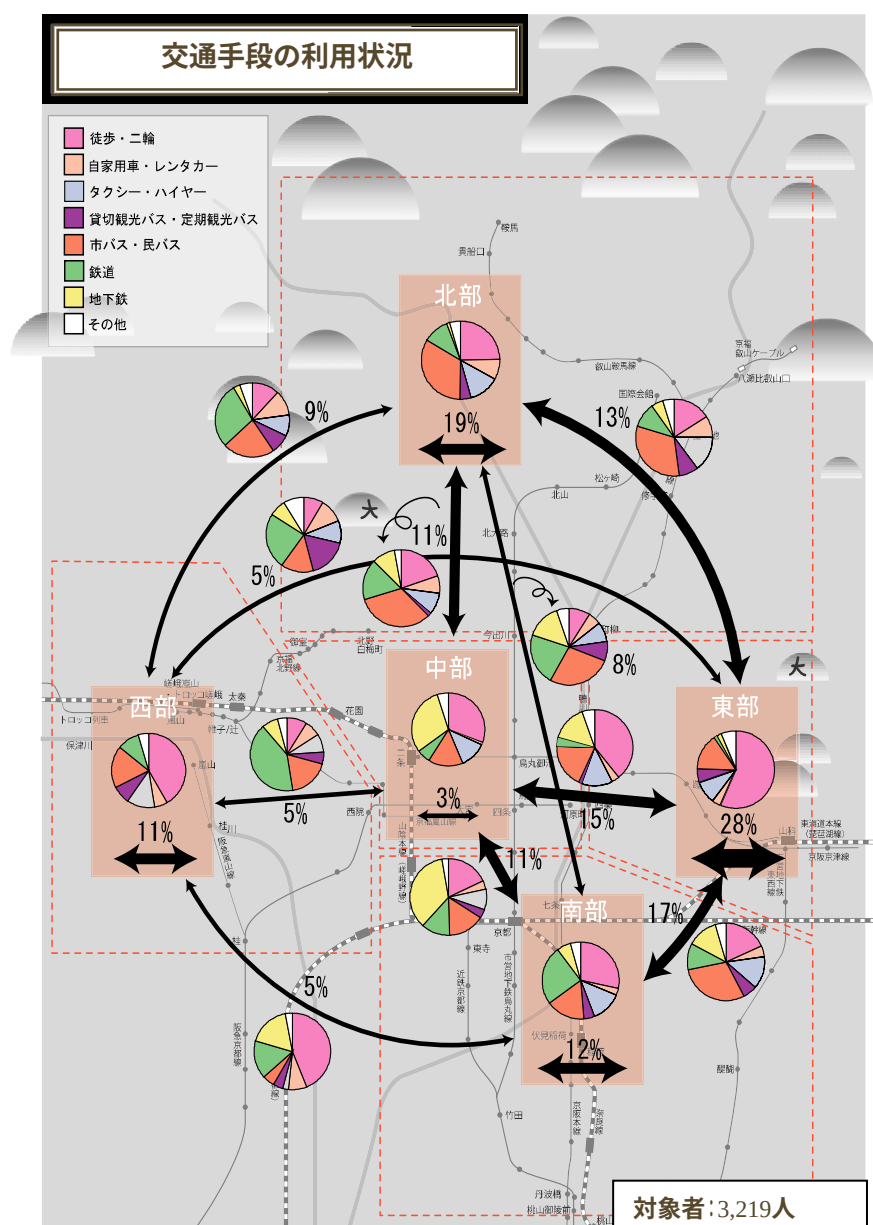
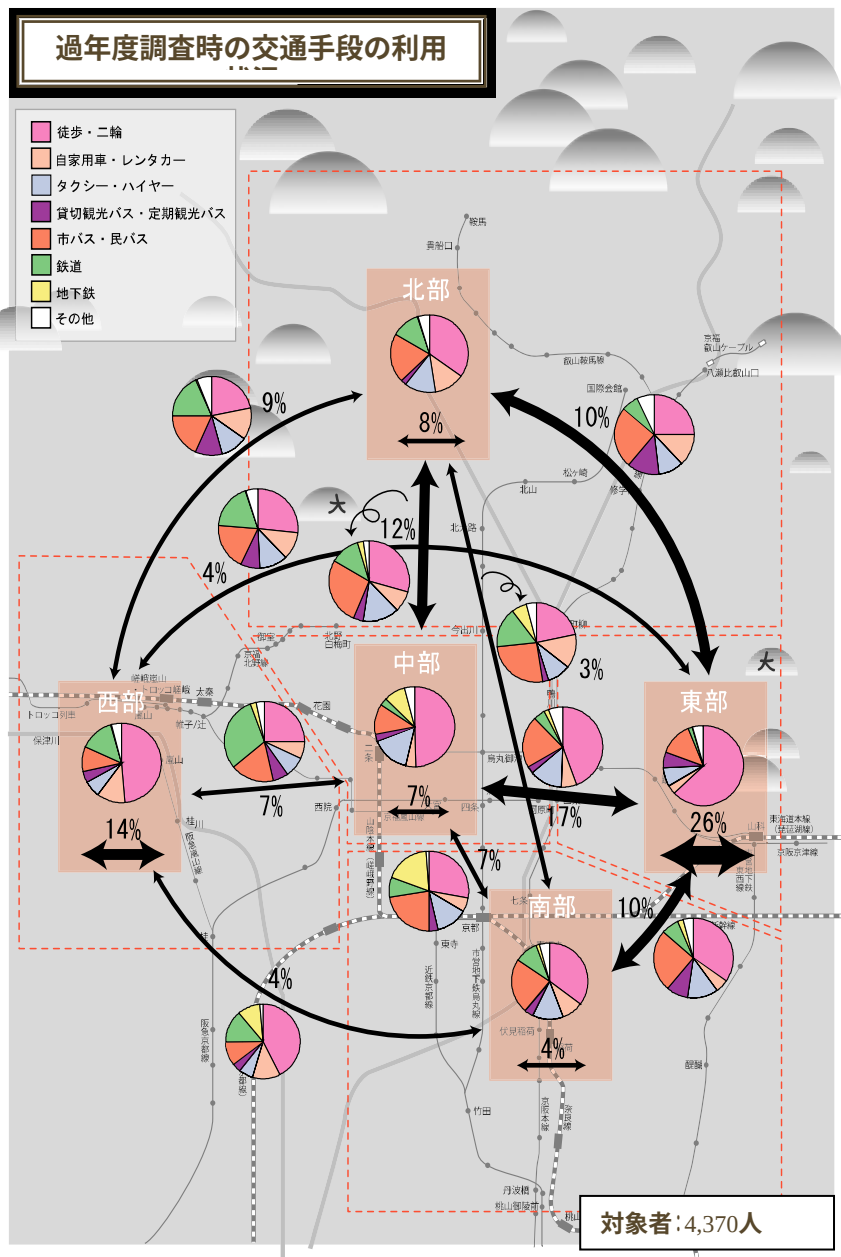


図 4-10 京都市内の利用交通手段 (現況)



※本調査結果との比較のため、本調査で配布しなかった京都南 IC、京都東 IC で調査票を受け取った回答者は削除している。

図 4-11 京都市内の利用交通手段 (過年度 [1996 年])

(イ) 利用交通手段別の観光流動

- 公共交通利用者は、「京都駅周辺」、「河原町・新京極周辺」を中心とした放射状に流動が広がっている。
- 自動車利用者は、「大原・八瀬方面」、「高雄方面」など、京都市中心部から離れたところへの移動が多い。

※ここで自動車利用者は、京都市内の移動に「自家用車」、「レンタカー」を**1**回でも利用し、かつ「バス」、「鉄道」を利用していない回答者と定義し、公共交通利用者を「バス」、「鉄道」を**1**回でも利用し、かつ「自家用車」、「レンタカー」を利用していない回答者として集計した。

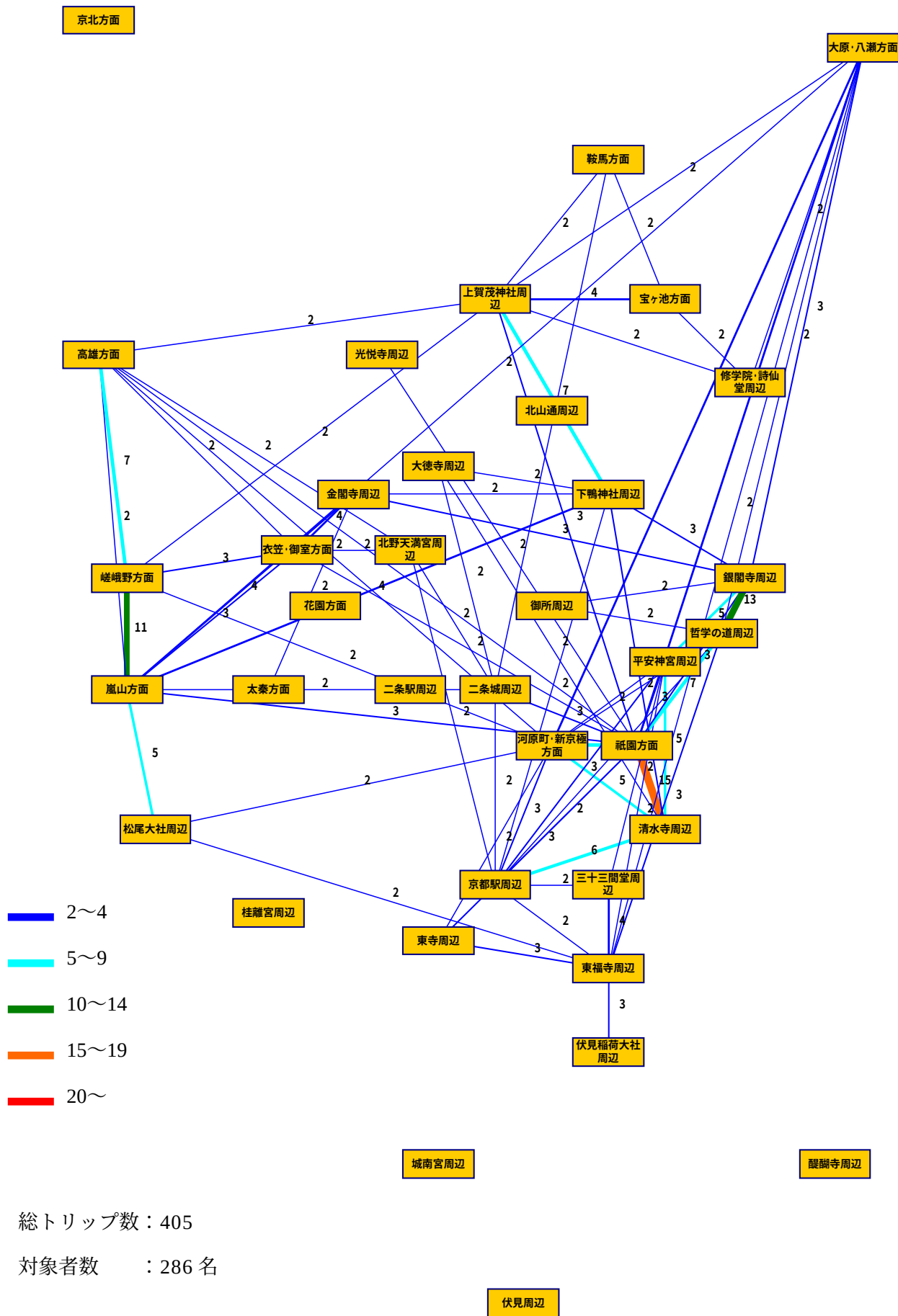


図 4-12 自動車利用者の交通流動

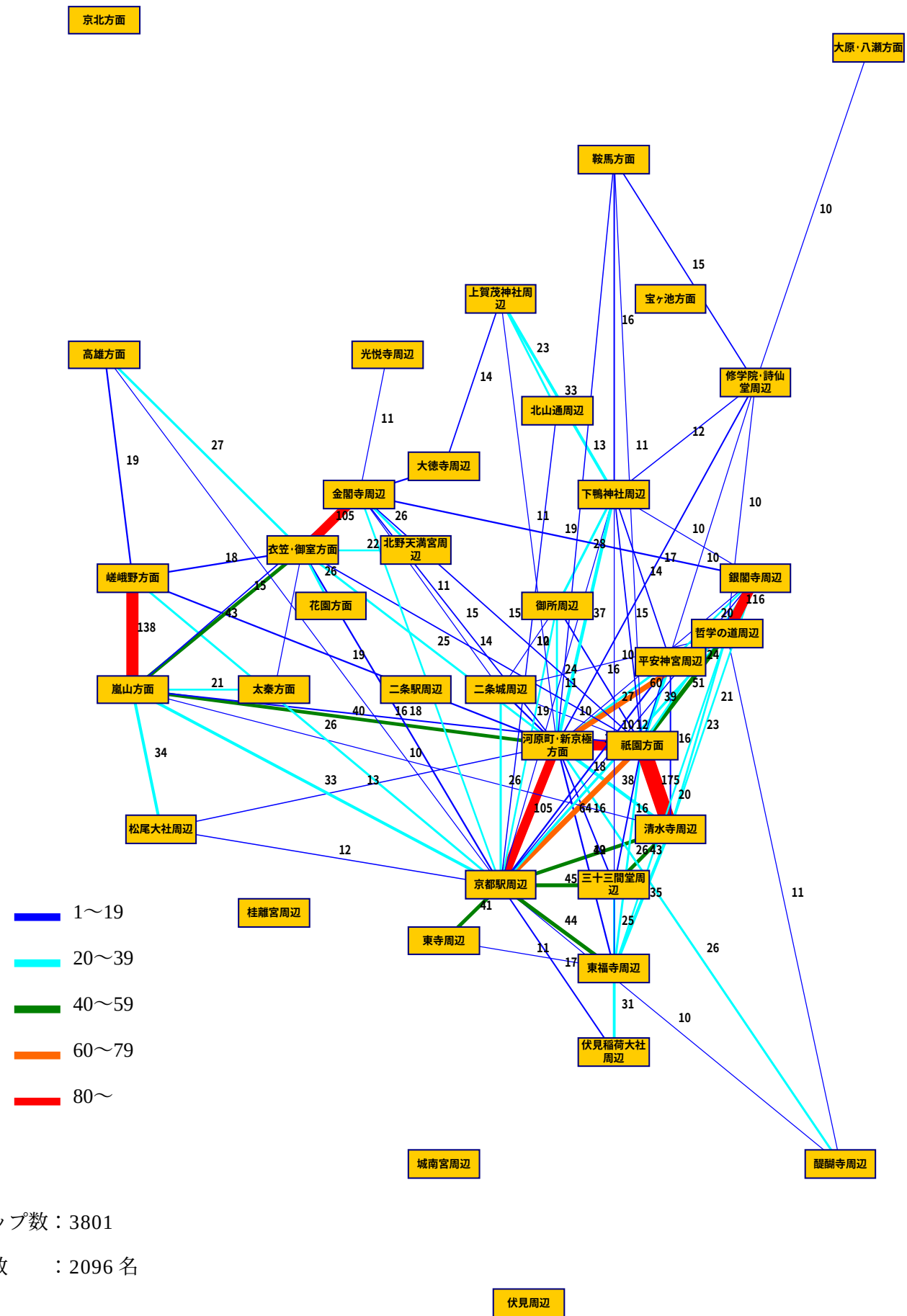


図 4-13 公共交通利用者の交通流動

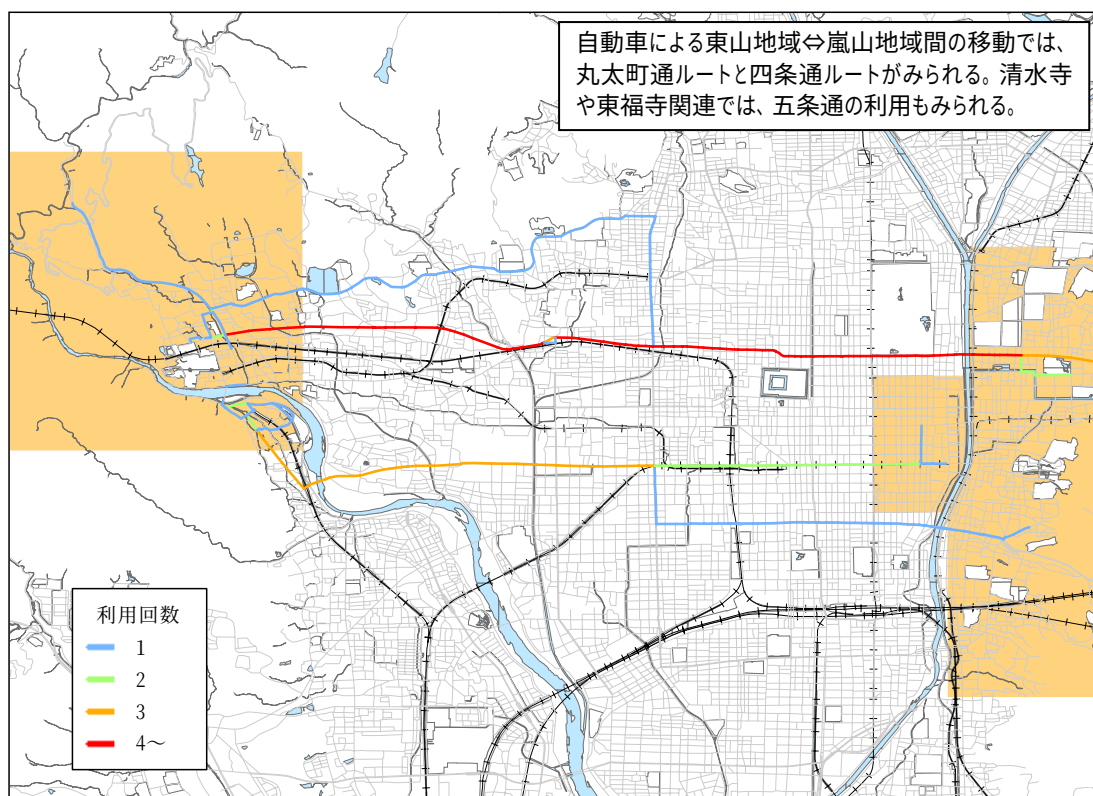


図 4-14 自動車による観光地間の利用経路 (東山地域⇄嵐山地域間)

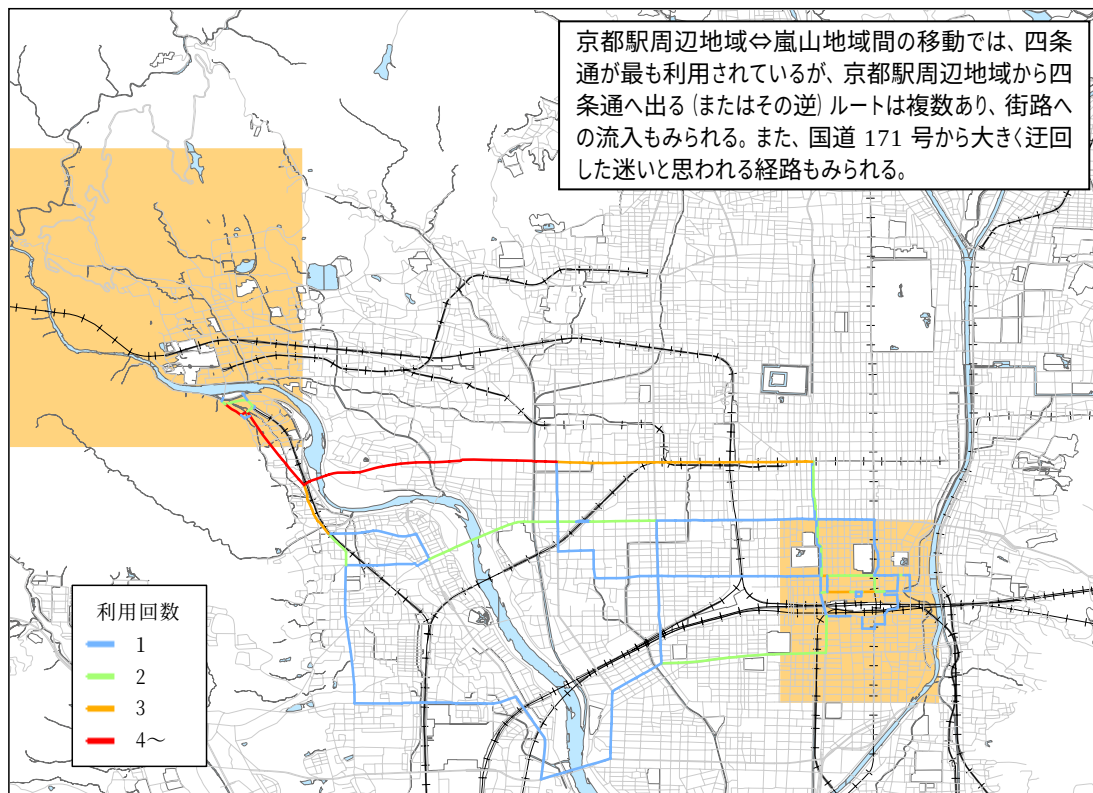


図 4-15 自動車による観光地間の利用経路 (京都駅周辺地域⇄嵐山地域間)

(ウ) 時間帯別の観光流動

- 「河原町・新京極方面」、「祇園方面」、「京都駅周辺」間の移動が活発である。
- 8～9 時は観光客が少なく、10 時から増加しており、「大原・八瀬方面」「鞍馬方面」の北部、「嵐山方面」「嵯峨野方面」を中心とした西部、「祇園方面」など東部、「JR 京都駅」など南部と、京都市内全体的に観光客が増加している。14 時になると、「河原町・新京極方面」と「JR 京都駅」間の移動が増加している。

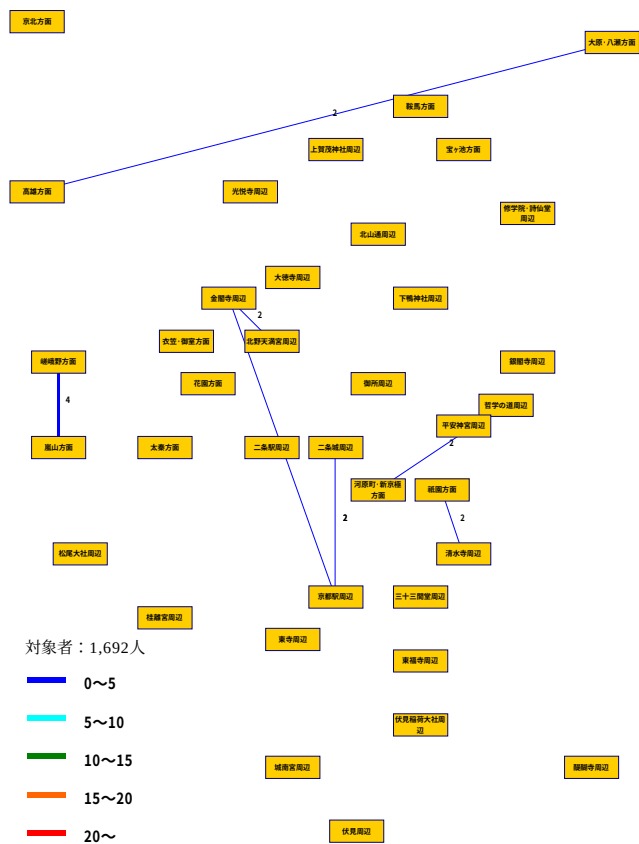


図 4-16 8 時台の流動図

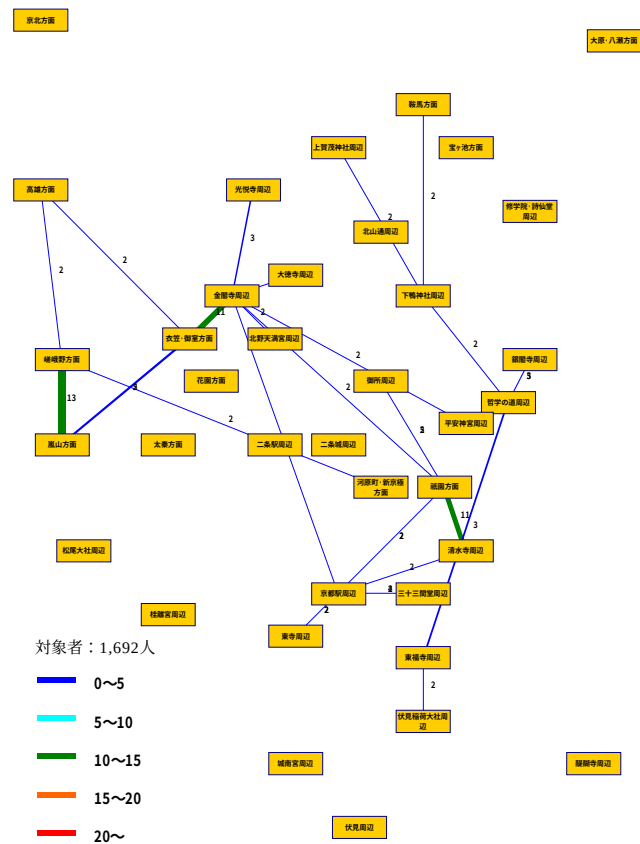


図 4-17 9 時台の流動図

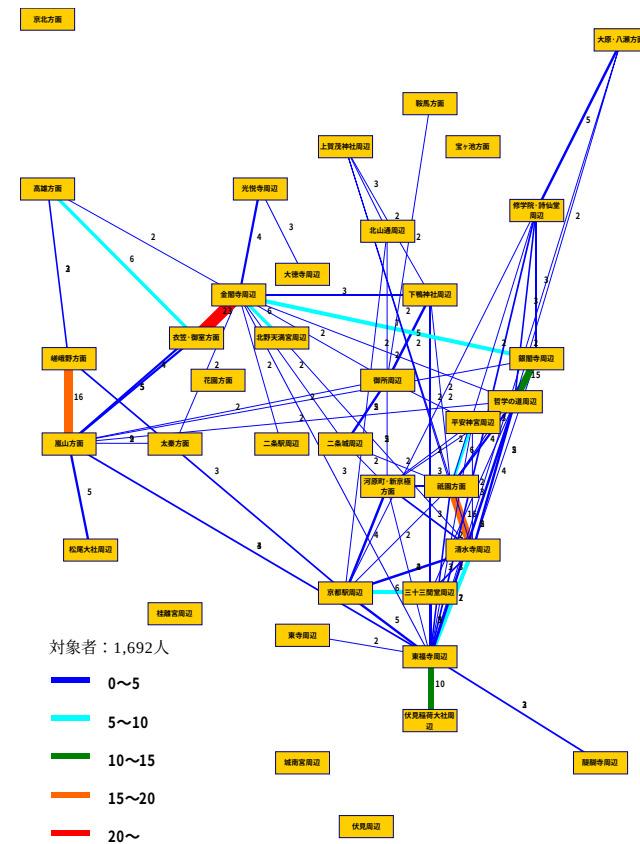


図 4-18 10 時台の流動図

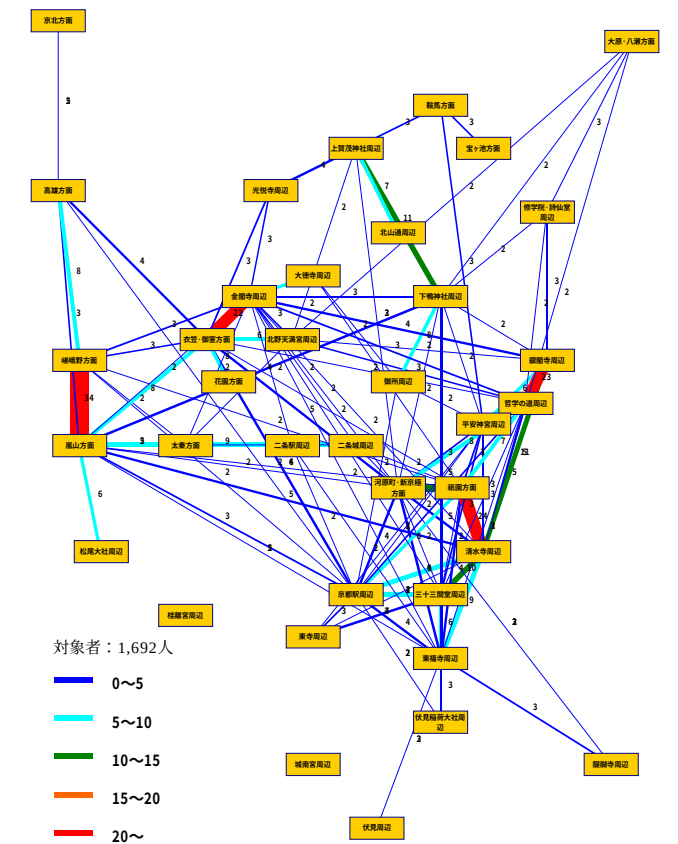


図 4-19 11 時台の流動図

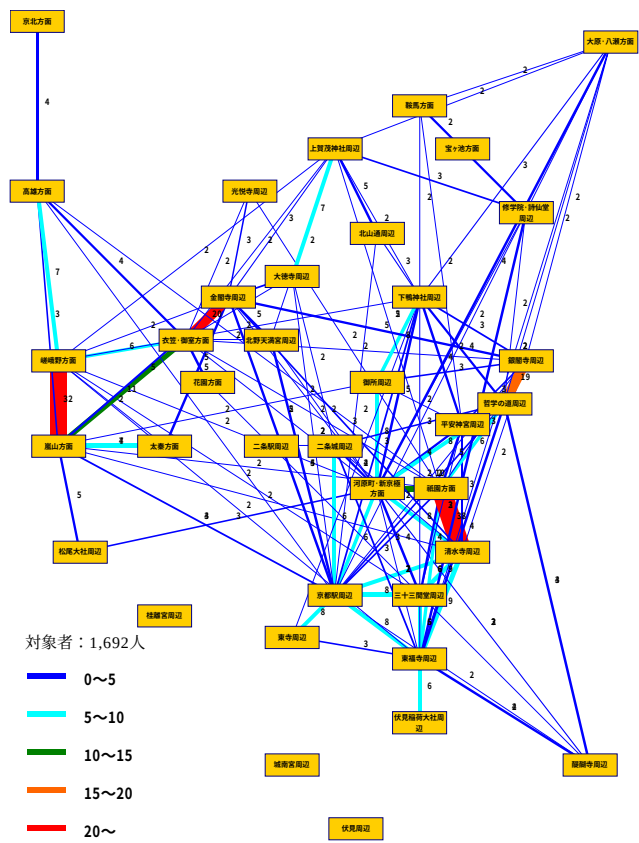


図 4-20 12 時台の流動図

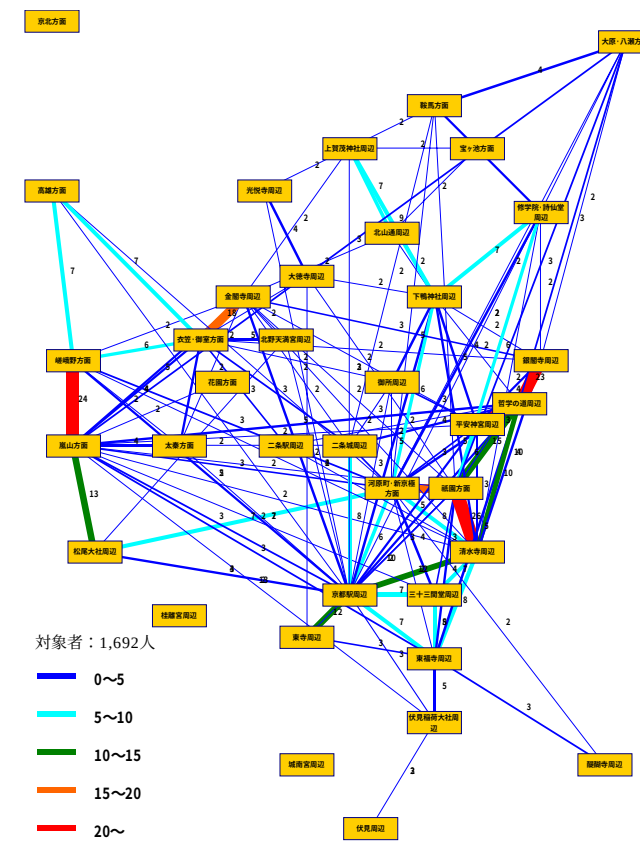


図 4-21 13 時台の流動図

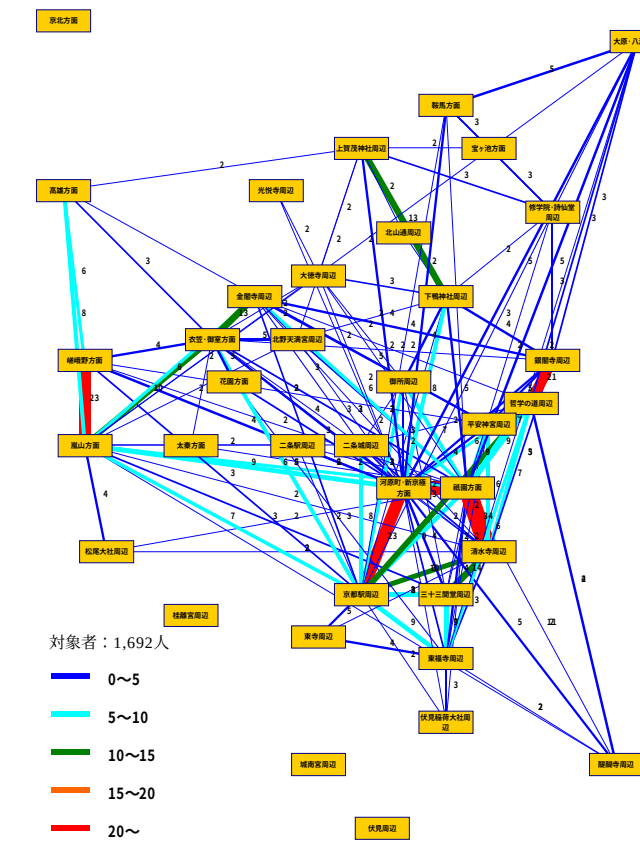


図 4-22 14 時台の流動図

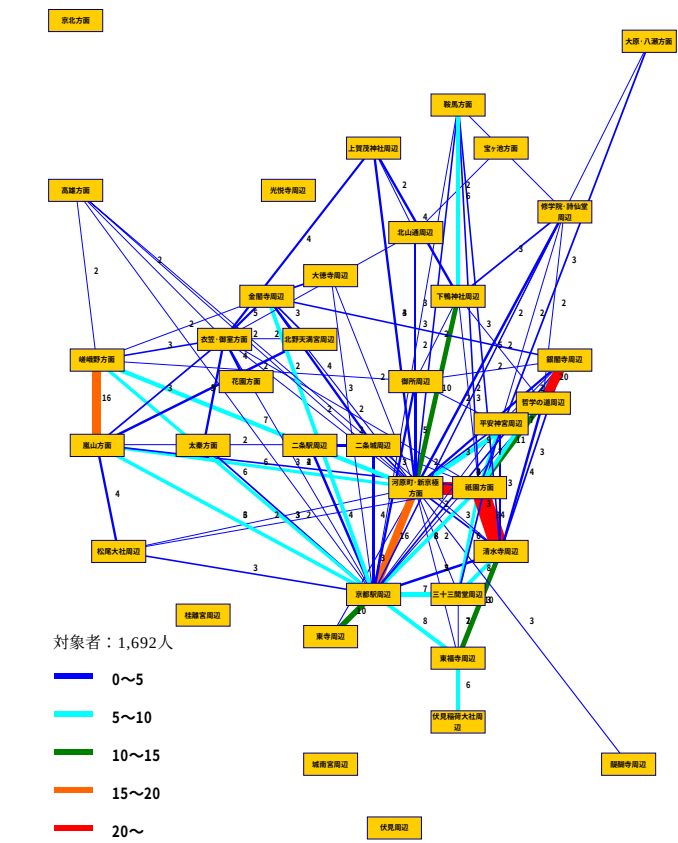


図 4-23 15 時台の流動図

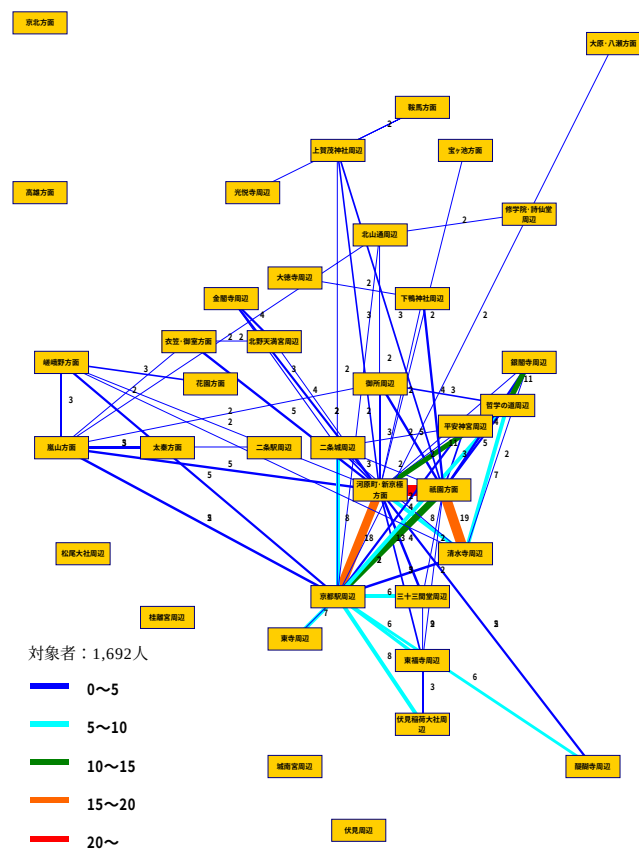


図 4-24 16 時台の流動図

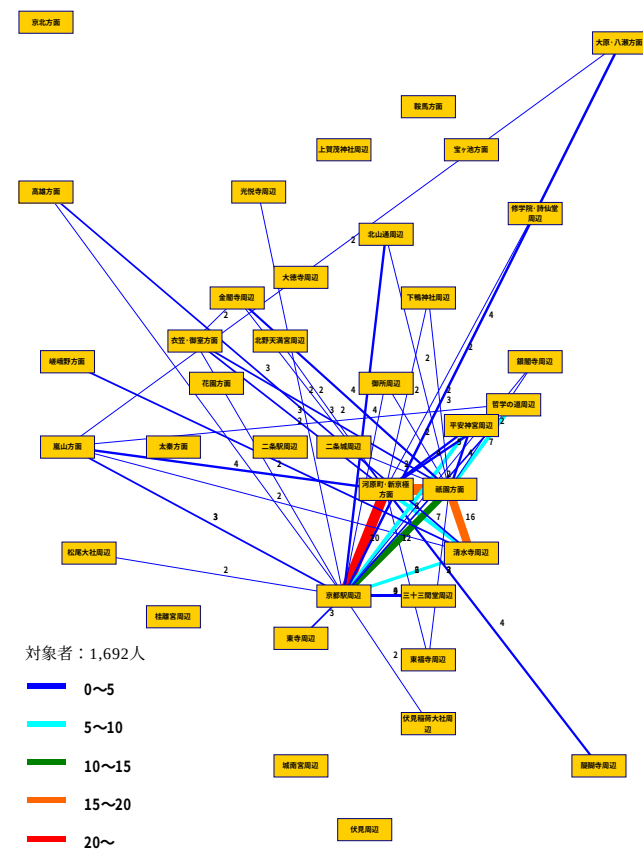


図 4-25 17 時台の流動図

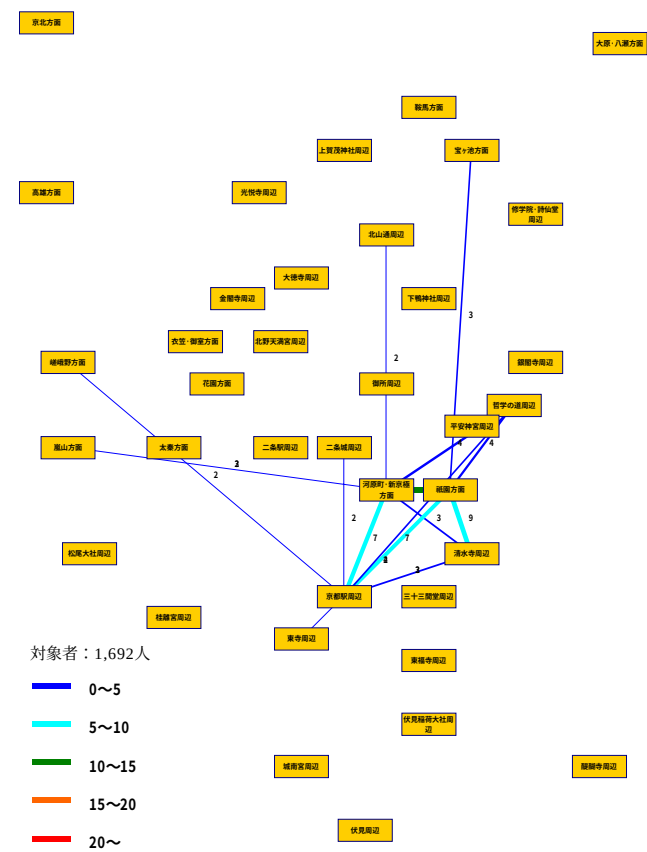


図 4-26 18 時台の流動図

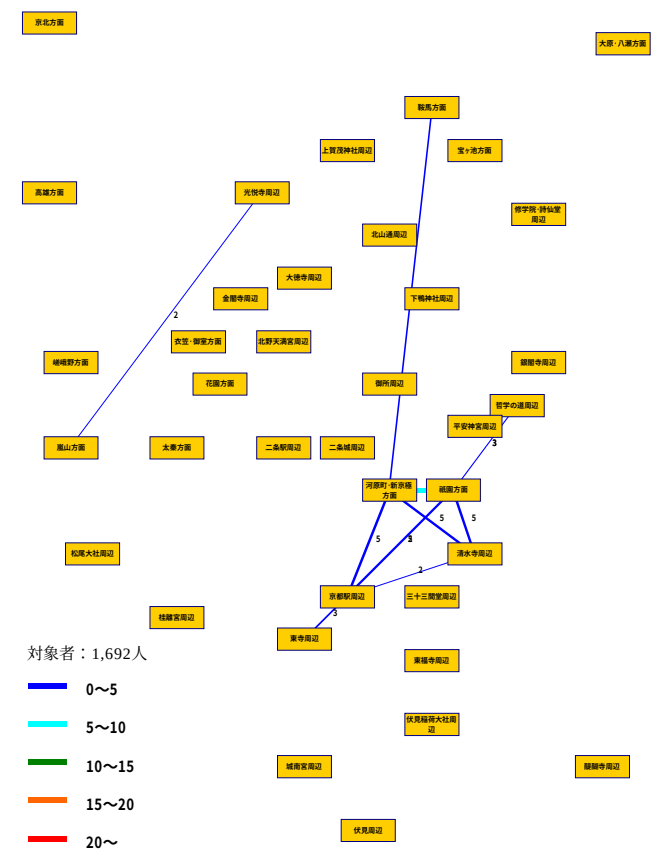


図 4-27 19 時台の流動図

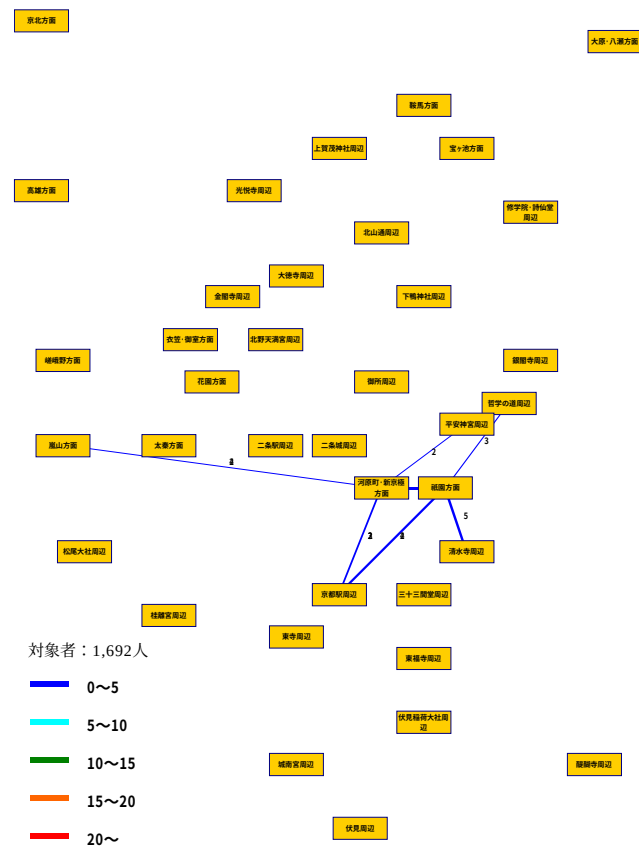


図 4-28 20 時台の流動図

